



拡張完了予想パース



世界で活躍する日本の建設企業

ヴィエンチャン 国際空港 ターミナル拡張事業



株式会社安藤・間 本社 国際事業本部 建築部 ヴィエンチャン国際空港出張所

梅田智樹

Tomoki Umeda

ラオス人民民主共和国の紹介

ラオス人民民主共和国は東南アジアのインドシナ半島に位置する共和制国家、人口は約六五〇万人（二〇一五年）で、アセアン一〇カ国で唯一の内陸国である。国土面積は日本の約六三％に相当し、その約八割が高原や山岳地帯で、北は中国、東はベトナム、南はカンボジア、タイ、西はミャンマーと国境を接する。気候はモンスーンの影響で、雨期（五月から十月）と乾期（十一月から四月）が比較的明瞭である。宗教的には敬虔な上座部仏教徒が大多数を占め、毎朝、各家庭の軒先で托鉢僧に祈りを捧げる人々の姿が見られる。国民性は概して温和である。

プロジェクトの紹介

本プロジェクトはラオスの首都ヴィエンチャンにおいて既存のヴィエンチャン国際空港を拡張するものである。内陸国であるが故、ラオスでは航空交通が、人やモノの移動、周辺国との社会経済交流の観点から非常に重要な輸送手段となっている。また近年、年平均八％を超える経済成長率を背景に航空需要が急速に拡大している。二〇一四年の旅客実績は国際線六九万人、国内線二九万人、合計九八万人であり、二〇二三年には国際線一五二万人、国内線四六万人、



托鉢風景

合計一九七万人まで増加すると予測されている。

このような背景を踏まえ、急速に拡大する航空需要に対応すべく、旅客の利便性向上、航空輸送の安全性確保のために旅客取扱施設等の拡充を図ることが本プロジェクトの狙いである。

本プロジェクトには、日本政府の有償資金協力事業による資金を活用し、二〇一五年十二月に着工、二〇一八年八月の竣工予定である。

工事概要

積は約一三、〇〇〇平方メートルであるが、本プロジェクトにより増築が施され約二倍の規模となる。国内線ターミナルビルは一九六二年に旧ソビエトの技術支援により建設されたものであるが、既に五〇年以上が経過しており老朽化が激しいため、本プロジェクトにより二階建RC造、床面積約七、三〇〇平方メートルが新築される。他にも給電、給水、汚水処理設備等ユーティリティ施設全般が大幅に拡充される。

また、滑走路処理能力向上のため約二八、三〇〇平方メートルの高速脱出誘導路一本が新設されるほか、旅客増加に対応して駐車場約一四、三〇〇平方メートルが整備される。その他、旅客搭乗橋設備、手荷物搬送設備、空港保安機器等、空港特殊機器も増設される。

終わりに

ラオスは、インドシナのバッテリーとも呼ばれ、豊富な水力資源活用による発電・電力輸出を行っているが、近年、世界遺産の古都ルアンプランを中心とした観光産業の発展も目覚ましい。中国・韓国などの様々な都市との間に直行便が就航され、旅客の急速な増加を日々肌で感じている。安全管理、品質管理を徹底し、一日も早くプロジェクトを完成させることで、関係者の皆様の期待に応えていきたい。



国際ターミナル拡張部鉄骨工事状況



既設空港ターミナルビル全景